

11/7 Hirado City Photo News
コロナ禍での原発事故を想定



佐賀県の玄海原子力発電所における万が一の事故に備え、防災関係機関が連携した原子力防災訓練が行われました。

大島村では、大島支所を新型コロナウイルス感染者の自宅に見立て、原発事故が起こった際の島外への避難訓練を実施しました。支所職員が扮した感染者を平戸海上保安署の巡視艇で神浦港から平戸港へ搬送。待機していた県北保健所長による体調の確認が行われたのち、救急車で佐世保市総合医療センターに向かいました。

10/31 Hirado City Photo News
平和の尊さを後世に語り継ぐ



平戸文化センターにおいて、戦没者追悼式が開催され、戦没者2,542柱を追悼しました。

今年は、新型コロナウイルス感染防止の観点から、児童の平和への誓いや合唱、生徒の追悼演奏は行わず、参列者も大幅に制限して実施。遺族を代表して川邊潤一郎さん、浦部砂都美さんが献花、山口庄重さんが献水を行いました。

連合遺族会の岡山紀一会長が「私たちのような戦没者遺族を出さないため、平和の尊さを語り継ぐ」などと追悼の言葉を述べました。

11/4 Hirado City Photo News
介護のイメージをポスターに描き、介護への理解を深める



11月11日(いい日、いい日)「介護の日」の周知の一環として、市内の小学生・中学生を対象に募集した「介護の日」ポスターの入選者に表彰状を授与しました。

今年は、合計60点の応募があり、小学生の部、中学生の部ともに優秀賞各1人、佳作各2人が選ばれました。入選作品は、平戸市ホームページにおいて公開しています。

小学生の部 優秀賞 古川笑湖さん(志々伎小2年)
 中学生の部 優秀賞 北原夕瑞さん(大島中1年)



11/13 Hirado City Photo News
税のことをより身近に



11月11日から17日までの「税を考える週間」の一環として、平戸市租税教育推進協議会が募集した「税に関する作文」の表彰式が未来創造館で行われました。今年は、平戸市内の高校から246点、中学校から344点の応募があり、高校の部5点、中学の部4点が表彰されました。

平戸市租税教育推進協議会の会長である黒田市長は「将来を担う中高生が税について考える良い機会。どの作文も税と公共サービスの関わりを理解し、自分の意見がしっかり書かれていた」と話しました。

11/7 Hirado City Photo News
コロナ収束を祈願して封灯設置



春日町の春日集落案内所かたりな周辺の棚田で、11月1日～30日まで世界遺産イルミネーションイベント「春日の祈り」を行いました。

春日集落の四季を表す4色の灯りが、15分ごとに変化しながら、満天の星空とともに棚田を明るく彩りました。

11月7、8日は、新型コロナウイルス感染症の収束を祈って封筒の中にもろろそくをいれた封灯を棚田の通路に567個設置。訪れた人たちは、世界遺産の棚田の中でゆらめく灯りに魅了されていました。

10/28 Hirado City Photo News
貴重な介護人材を激励



平戸市役所市長室において、平戸市介護人材確保支援事業賞賜金交付式が行われ、9月から特別養護老人ホームあんのんに勤務する岩崎杏子さんに市長から賞賜金が交付されました。

この事業は、満25歳以下で介護職として就職した人に激励の意を込めて賞賜金を交付するもので、通算で10回目となります。

交付を受けた岩崎さんは「介護の経験は、今後の人生の財産になると思うので、精一杯頑張りたい」と抱負を述べました。

10/26 Hirado City Photo News
躍動的な舞に拍手も



亀岡神社で国指定重要無形文化財「平戸神楽」の全24番を公開する「大大神楽」が奉納されました。大大神楽は年に1度、亀岡神社の例大祭で奉納されます。

平戸神楽は、江戸時代前期、松浦家29代鎮信(天祥)が吉岐出身の国学者である橘三喜に命じ、全国の一ノ宮を巡拝し、調査研究を重ねて完成させたと伝えられています。

躍動的な舞である「神相撲」や、真剣を用いる「二剣」などでは、見物客から拍手が起こりました。